



# 京都市1.5℃を目指す将来世代職員 フューチャーデザインチーム

## 活動報告

# 京都市1.5℃を目指す将来世代職員フューチャーデザインチーム（FDチーム）

設置時期

令和元年9月

位置付け

京都市1.5℃を目指す地球温暖化対策推進本部の下部組織・施策推進チーム（本部規則第9条）

設置目的

長期目標「2050年CO2排出量正味ゼロ」に向けた庁内議論を推進

地球温暖化対策条例の見直し及び次期地球温暖化対策計画の策定に係る検討への反映

チーム員

2050年時点の京都市政を担う若手職員25人（13局区6職種）

（担当部局の垣根を越えて公募し、多様な職種や職場経験、専門知識を有するチーム員が集結）

実施手法

将来世代の視点・利益を踏まえた政策立案を行う手法

「フューチャー・デザイン」を取り入れたワークショップを全5回開催

技術支援

総合地球環境学研究所（京都宣言の宣言主体の一つ）の「次の千年の基盤となる都市エネルギーシステムを構築するためのトランジッション戦略協働実践研究」からの技術支援を得て実施。



# F Dチーム活動概要

- 「フューチャー・デザイン」を取り入れたワークショップを開催し、チーム員は**2050年に生きる将来世代職員**として参加（2019年9月から2020年1月まで全5回）
- 気候危機を回避した持続可能な京都のまちを**将来世代の利益**として捉え、そのための道筋や2030年までに必要とされる施策を議論
- 議論の成果として、『**2020年現在職員へ送るメッセージ**』を作成



1班：建物



2班：建物



3班：移動



4班：土地利用・緑



5班：ライフスタイル

必要とされた  
「**4つの変化**」  
に分かれて議論

## 議論の特徴

### 1 価値観の転換

環境に良いことが我慢・負担という現在の常識から離れ、脱炭素を目指すことは京都の価値を高める機会、魅力あふれるものにする機会という転換が見られた。

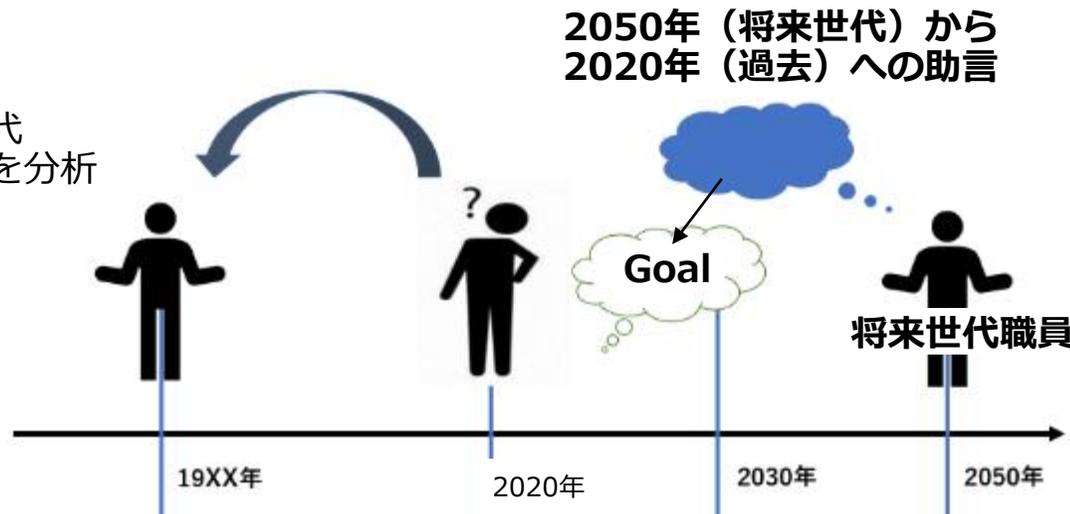
### 2 部局を統合する施策

あらゆる日々の暮らしが脱炭素に関連することから、副次的なCO2減、脱炭素施策のCO2削減以外の正の効果など、現在の部局の枠組みから離れた統合的な施策の捉え方がされた。

# FDチーム活動概要

第1回	9月9日	・ FDチーム結成, 過去デザイン (過去政策の評価と分析)
第2回	10月30日	・ 将来世代職員として2050年の京都市を考察
第3回	11月22日	・ 2050年の京都市をテーマ別に詳細化 (建物、移動、土地利用・緑、ライフスタイル) ・ 2020年職員へのメッセージ (案) 作成 …2050年に辿り着くために2030年までに必要なこと
第4回	12月26日	・ 2030年までに取り組むべき施策集 (案) 作成 …2050年までのロードマップを作成しながら
第5回	1月31日	・ 2050年から過去への助言として『2020年現在職員へ送るメッセージ*』完成・送信 * 3項目: ①2050年の京都市, ②2030年までに取り組むべき施策集, ③2020年職員への応援メッセージ

【第1回】過去デザイン  
過去職員から見た将来世代職員として, 当時の施策を分析



【第2回】  
2050年の京都市を考察

【第3~5回】  
将来世代職員から2020年現在の職員へ,  
2030年までに取り組むべき施策を提案

# 第1回 FDチーム結成, 過去デザイン (過去政策の評価と分析)

## 1 チーム員への期待の言葉 (下間地球環境・エネルギー担当局長)



## 2 京都市地球温暖化対策の振り返り



## 3 過去デザイン (過去政策の評価と分析)

- 5班7人体制 チーム員5人  
ファシリテーター1人 (温対職員)  
グラフィッカー1人 (研究チーム)
- 過去政策に対するメッセージ作成



## 第2回 将来世代職員として2050年の京都市を考察

### 1 講義

- ・ 脱炭素に必要な要素について（国立環境研究所 小端特別研究員）
- ・ フューチャー・デザインについて（大阪大学 原教授）

### 2 議論

- ・ なんとか気候危機を回避した**2050年現在の京都市の姿を考察**  
（CO2排出削減要因のほか、波及効果として京都のまちの魅力アップ/ダウンについても）

**考察結果** 過去（2020年）と比べて主に**4つの変化**

#### ・ ライフスタイル

地産地消が進み輸送のCO2削減と小さな経済圏創出。環境教育が進み環境に良い行動が当たり前。

#### ・ 移動

シェア交通が当たり前。在宅でできることが増え移動が減る一方、人と会う機会が減る。

#### ・ 建物

断熱性能が高く室内の快適性向上、健康増進にも。太陽光発電・蓄電で停電時も安心。

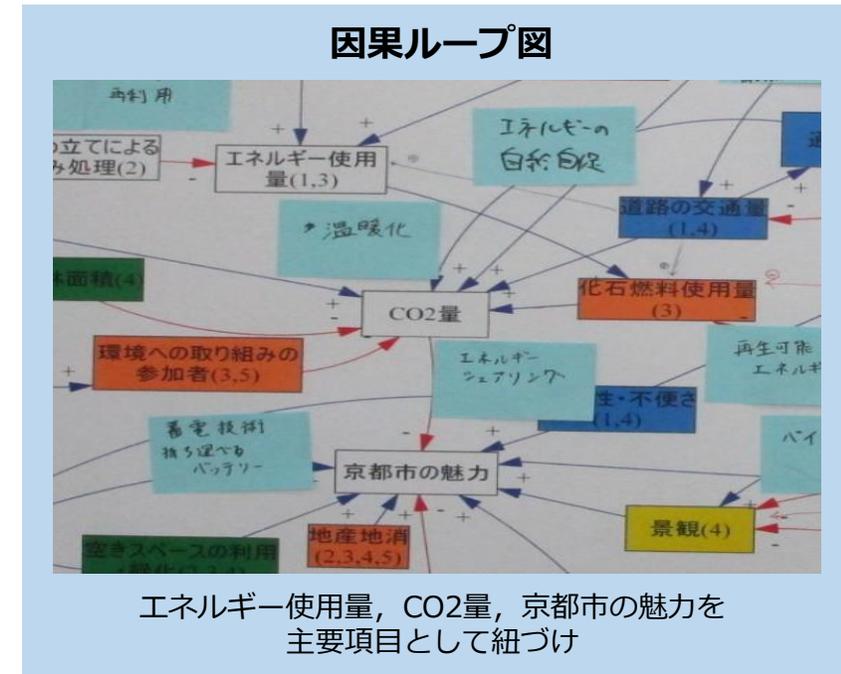
#### ・ 土地利用・緑

自動車交通量減に伴う車線や空き地の緑化、グリーンインフラによる遮熱・豪雨災害の防止力向上。



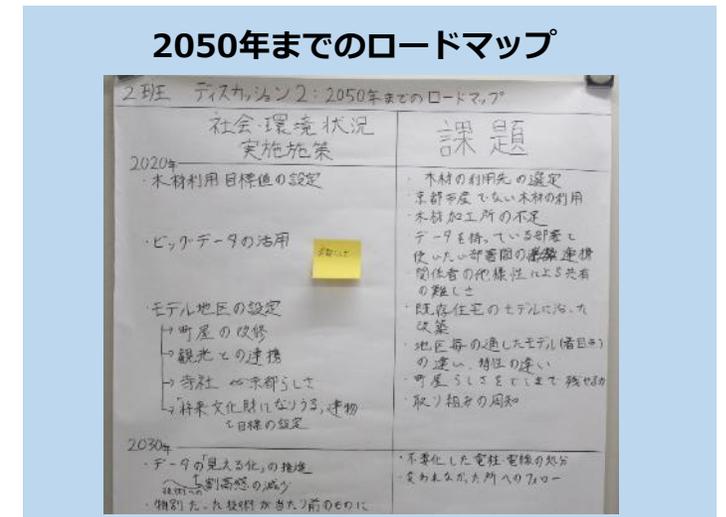
## 第3回 2050年の京都市をテーマ別に詳細化 2020年職員へのメッセージ（案）作成

- 議論1** 因果ループ図を用いて、第2回の考察結果が脱炭素につながっているか関係を見直し
- 議論2** 変化が生じた4つのテーマに分かれて2050年の京都市を詳細化
  - 3原則（省エネ、エネルギーの電化、再エネ）とコベネフィットを意識して
- 議論3** 2020年職員へのメッセージ（案）を作成
  - 2050年の京都市に辿り着くために、2030年までに必要なこと（2030年までに●●しておく必要がある。●●しておくべきだった。）



## 第4回 2030年までに取り組むべき施策（案）作成

- 議論1** 2020年職員へのメッセージ（案）の過不足を点検し，必要な施策を再検討
- 議論2** 2050年までのロードマップを作成しながら，議論1の施策が実施されていく過程を振り返り，直面した課題や困難さのあぶりだしと，2050年の京都とのギャップ有無を確認  
 （回避・克服するためのアドバイスは？） （ギャップを埋めるには？行動を加速するための追加アドバイスは？）
- 議論3** 議論1・2で把握した改善点を踏まえ，2020年職員へのメッセージ（案）を **2030年までに取り組むべき施策集（案）**として更新



## 第5回 『2020年現在職員へ送るメッセージ』完成

- **議論1** 他班の2030年までに取り組むべき施策集（案）について他者評価  
\* 各班を自由にまわり、2050年現在以降の世代に有益と思う施策に●シール、追加アイデア等をポストイットに記載して貼る
- **議論2** 他班から得たコメントを踏まえ、**2030年までに取り組むべき施策集を完成**
- **議論3** 施策集を受け入れるように、**2020年職員を説得する応援メッセージを作成**



1班：建物

施策集は「将来世代の視点や利益」をものさしに議論したからこそ提案できたもの。なぜ、現世代は提案できないのか？（現世代との利益衝突？実現可能性を考慮？）施策集の必要性を伝え、現世代において取組が始まるように促す。



2班：建物



3班：移動

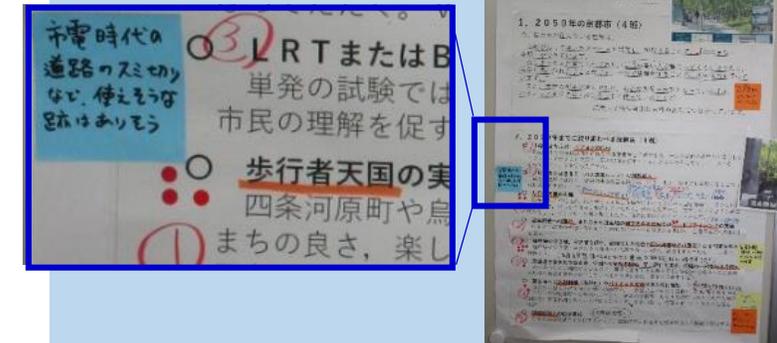


4班：土地利用・緑



5班：ライフスタイル

### 他者評価の状況



# 議論のまとめ

全5回チーム会議において議論を重ね、『2020年現在職員へ送るメッセージ』完成

## 2050年

『2020年現在職員へ送るメッセージ』3項目で構成

- 1 2050年の京都市 (第2・3回)
- 2 2030年までに取り組むべき施策集 (第3・4・5回)
- 3 2020年の職員への応援メッセージ (第5回)

## 過去への助言



## 2020年

京都市 1. 5℃を目指す  
地球温暖化対策推進本部  
(事務局：地球温暖化対策室)

2050年の京都市に辿り着くために  
2020年から2030年の10年間で取り組む必要があること！

## 各班の『2020年現在職員へ送るメッセージ』概要（詳細：別紙2）

1班	建物	地球温暖化対策を確立するための土地の確保と脱炭素を実現する実施手法の確立，不便さの中にある魅力創出
2班	建物	住んでよし「京都型エネルギーシェアリング」の推進，訪れてよし「京都型CO2固定化」の体験，広げてよし「京都型脱炭素化メソッド」の発信
3班	移動	移動手段の転換によるCO2発生抑制（自動車を手放させるための施策，移動の効率性向上のための施策） 移動量の削減によるCO2発生抑制（人の移動を減らすための施策，物の移動を減らすための施策）
4班	土地利用・緑	ステージ1：「森のまち京都」ビジョンの作成と機運の醸成，ステージ2：植樹用スペースの確保と自動車流入の抑制，新交通システムの実証実験，ステージ3：緑化・農地化の開始と緑の循環的利用の促進
5班	ライフスタイル	環境先進国への留学プログラム確立，「働き方改革×環境」施策，京都独自の環境配慮ラベル，環境教育のための動画配信，環境教育プログラムの開発提供

### 1 長期目標「2050年CO2排出量正味ゼロ」に向けた庁内議論を推進

- 京都市1.5℃を目指す地球温暖化対策推進本部へ、下部組織である施策推進チームで議論された施策アイデアとして、『2020年現在職員へ送るメッセージ』を報告し、今後の議論に活用する。
- 多様な職種や職場経験、専門知識を有する若手職員から成るネットワークが構成されたことから、チーム会議活動期間を終えた後も、担当者レベルでの脱炭素への理解や政策融合が推進されるように、自主的なネットワークとして機能を維持する。（例：本部会議資料等をはじめとする情報共有等）

### 2 地球温暖化対策条例の見直し及び次期地球温暖化対策計画の策定に係る検討への反映

- FDチームによる施策アイデアのうち、省エネルギーと暮らしの質を高める「シェアリング」の考え方や、正味ゼロと都市格の向上を目指す「緑（CO2吸収源対策）」強化の必要性について、京都市環境審議会の部会である地球温暖化対策推進委員会での議論を経ながら、条例・計画案の検討に盛り込む。
- 本改正・改定に盛り込むことができなかった施策については、地球温暖化対策室において「ストック」し、機を逸することなく2030年その先に向けた「プラスアクション」の種として活用する。

### 3 2050年CO2排出量正味ゼロに向けた研究機関との連携

- 国立環境研究所において、FDチームによる施策アイデアをコミュニティ単位で検討・実践することを盛り込んだ「京都カーボンニュートラルに向けたトランジション実践戦略研究」の計画が進んでいる。
- 引き続き、京都市における脱炭素化研究として連携・支援していく。

## 【参考】京都市1.5℃を目指す将来世代職員フューチャーデザインチーム員

1班	福田堯（ごみ減量推進課），岡山達也（防災危機管理室），中川裕嗣（市長公室），柴山健次（公共建築整備課），馬場俊介（上京区地域力推進室），★松浦真奈（地球温暖化対策室）
2班	東出竣司（建築企画課），村上紘俊（公共建築建設課），井川大裕（住宅政策課），黒澤英昭（中川出張所），常木大輔（深草支所地域力推進室），★杉本尚也（地球温暖化対策室）
3班	田代祐一（行財政局総務課），竹脇友子（健康長寿企画課），永田文哉（はぐくみ創造推進室），高橋潤（歩くまち京都推進室），白石みのり（南区生活福祉課），★原佑輔（地球温暖化対策室）
4班	宮田孝司（環境指導課），小西聖矢（プロジェクト推進室），吉原結城（共生社会推進室），木村匠汰（醍醐支所地域力推進室），児玉和大（交通局財務課），★白須萌（地球温暖化対策室）
5班	奥田晃美（文化庁移転推進室），羽織屋千加（くらし安全推進課），西村彩香（健康長寿企画課），藤井裕章（住宅政策課），重松杏菜（南区市民窓口課），★網本壮一郎（地球温暖化対策室）
（支援） 研究チーム	「次の千年の基盤となる都市エネルギーシステムを構築するためのトランジッション戦略協働実践研究」 プロジェクトリーダー：国立環境研究所特別研究員 小端拓郎 フューチャー・デザイン：大阪大学大学院工学研究科教授 原圭史郎 （その他研究者の皆様，大阪大学大学院学生に，グラフィッカーとして支援いただきました。）

★ファシリテーター